

質問日	平成30年 6月11日 (月)		質問方式	一括方式			
質問順位	2	会派名	創造浜松	議席番号	26	氏名	湖東 秀隆
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 区の再編について	<p>「区の再編」は市長が公約として掲げ、7年が経過している。ことしは任期の最終年度を迎え、議会としても地域住民の負託を受け本市の将来像を描き議論を深めてきた。</p> <p>地域住民には、「なぜ?」「今後どうなる?」などの不安を抱く人もおり、企業感覚での行財政改革の視点ではなく、市民側に視点を移し理解されるよう以下7点について伺う。</p> <p>(1) 市民が理解できる大義を伺う。</p> <p>(2) なぜ、この時期なのか伺う。</p> <p>(3) 施政方針で「コンパクトでメリハリの効いた拠点ネットワーク型都市構造を形成するとともに、総合計画における基本計画の検証や区制度の検討を進める。」と示したが、総合計画に位置づけられている各拠点と行政センター配置との整合性について伺う。</p> <p>(4) 現状の区役所や協働センターの業務内容にも地域格差がある。区再編後の行政センター等の業務内容の改善について伺う。</p> <p>(5) 区の再編による年間削減効果額が示されているが、地域(新たな区)などへ還元する考えはないか、使途について伺う。</p> <p>(6) 新市建設計画搭載主要事業の進捗状況について、担当部局が完了と判断した事業の中には、行政側の判断と市民感情との間に大きな乖離があるものもあり、区の再編により完全に事業が抹消されるのではないかと疑念を抱いている。合併時の新市建設計画の今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(7) 区の名称に対する考え方を伺う。</p>						鈴木市長
2 障がい福祉施設への公的支援について	<p>障害者自立支援法の施行により、民間事業者の障害福祉サービスへの参入が可能となったが、平成29年4月に指定障害福祉サービス事業等に関する基準が改正され、昨年度経営実態調査において、全国の就労継続支援A型事業所の7割が経営改善計画を提出する必要があるとの報道があった。</p> <p>さらに、事業所の閉鎖により就労者が解雇された事例も聞いている。</p> <p>そこで、以下の4点を伺う。</p> <p>(1) 本市における就労継続支援A型事業所の状況と市の指導について伺う。</p> <p>(2) 第3次障がい者計画における8つの分野別施策の中に、「雇用・就労」を定め、障がい者の一般就労支援の</p>						鈴木副市長 〃

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>3 浜松市立中学校部活動運営方針について</p>	<p>取り組みは掲載されているが、障がいのある人を支える障がい福祉施設への公的支援も必要と考えるが取り組みを伺う。</p> <p>(3) 障害者優先調達推進法に基づく、市の公共調達における就労支援について考え方を伺う。</p> <p>(4) 指定管理者（公共施設）への啓発の取り組みについて伺う。</p> <p>国の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を受け、「浜松市立中学校部活動運営方針」が策定された。この方針では、部活動は、この時期の子どもたちにとって重要な意義があるとしながら、教育課題の複雑化や教員の多忙解消などの課題への対応から、効率的・効果的な部活動の在り方を示している。</p> <p>また、部活動に関わる様々な制約や禁止事項など多面的に盛り込まれており、今年度は周知・試行期間、来年度9月に完全実施をするとある。</p> <p>そこで、以下4点について伺う。</p> <p>(1) 運営方針が形骸化せず、市内一律に機能するためには、市内全中学校が、共通歩調で遵守していく必要があると考えるが所見を伺う。</p> <p>(2) 休養日の設定、活動時間の制限について、保護者や生徒の納得が得られるのかが疑問である。この点について所見を伺う。</p> <p>(3) 国のガイドラインでは、参加大会数の制限を盛り込むように指示されているが、本市の方針には見当たらない。この点をどのように考えているか伺う。</p> <p>(4) 国のガイドラインでは、将来的に部活動を学校教育から切り離す方向性がうかがえるが、本市としてはどのように考えているか伺う。</p>	<p>長田副市長</p> <p>〃</p> <p>花井教育長</p>
<p>4 外国人児童・生徒等の支援について</p>	<p>近年、市内小・中学校に編入する外国人のうち、日本語が全く分からない状態である児童・生徒の割合が増加傾向であり、各学校ともに課題となっている。</p> <p>また将来は、本市をはじめ日本での進学・就労を夢に描いている子供たちもいると聞くが、そのためには、小・中学校で日本語を身につけ、学力を伸ばすことが必要と考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 市内小・中学校に在籍する日本語が全く分からない外国人の児童・生徒たちへの指導と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 将来、日本での夢を実現するためには、日本語を身につけ、学力を伸ばすことが必要と考えるが、教科指導についての状況と今後の取り組みについて伺う。</p>	<p>花井教育長</p>